

講義名	サービス消費論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	脇 穂積		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

日本国内における労働力人口に占めるサービス産業従事者比率は67.3%と、全体の三分の二以上。その比率は年々増加傾向にあり、我々の生活の多くの部分が「有償サービス」に置き換わっている証左でもある。我々は知らず知らずのうちに、「生活」の有償化へ歩を進めており、サービスの提供元である「企業」は、日々新たなサービスを生み出し、我々を完全なる「消費者」へと導き続けている。

我々を、完全なる「消費者」に変えつつある「サービス」とはなにか？  
 そうした「サービス」は、どのように生み出されるのか？  
 また、そもそも我々は何故「サービス」を消費する存在となったのか？  
 これらを考えることは、近代社会が続く限りにおいて必要不可欠な「命題」と考える。

本講義では、「サービス消費」をキーワードに、近代社会以降の「消費社会化」について、社会的に検討する。同時に、日本国内の産業構造の変化に注目し、近未来の我々自身が「サービス消費」をどのように構築すべきかについて、特に「消費側」の観点で検討していきたい。

**到達目標**

「サービス消費」とは何か。サービスの対概念である「モノ」、消費の対概念である「生産」を併せて検討することで、「サービス消費」の構造理解を深める。特に人間社会学部においては、「サービス」の語が含まれた開講科目が複数設置されており、「サービス」に関する理解を重要視していることがわかる（「サービス・マーケティング」「サービス・マーケティングリサーチ」「サービス・マーケティング事例研究」「サービス産業論」等）。

これら開講科目群は、主にサービス提供側の概念や方法論を解説する講義として設定されているが、本講義「サービス消費論」では、消費側（個人・組織）の立場で「サービス」をどのように受容しているかについて、行動経済学やダイヤモンドサイド経営学の知見等を検討し整理していく。

本講義では、将来、受講者が、社会から求められる「サービス」を創造すべき存在となるべく、その概念理解を進めていくことを目的とする。

**提出課題**

指定論文又は文献を事前に読み込み、講義日程に合わせてレポートを提出してください。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

各課題に対して提示された疑問点や質問を整理し、講義にて詳細説明いたします。また課題に関して、個別にもコメントし、各自に回答します。

**評価の基準**

講義中の質問 10%  
 講義課題の提出 90%

**履修にあたっての注意・助言他**

講義は、講義配信（双方向型）と課題提出を組み合わせて実施します。講義配信（双方向型）の際には、積極的にコメント・感想・質問してください。

WEB環境（通信・器材スペック）や受講環境（個室の有無や周辺環境等）が各自異なることを考慮し、本講義においては、極力講義配信回数を少なくし、課題提出にて講義を進めていきたいと考えております。ただし、課題にて提出された疑問点や、内容理解を深めるために講義配信は双方向型にて実施予定にしております。なるべく時間内に参加し、追加の質問等を積極的にいただければ幸いです。

WEB・受講環境が整っていない方は、講義配信を動画で記録しオンデマンドにて確認できる状態にしておきますので、動画を見たらうえて、疑問点や質問を送付してください。

教科書	. 予想どおりに不合理.	ダン・アリエリー	早川書房	900	9784150503918

**プリント資料及び参考文献**

近藤隆雄、「サービス概念の再検討」『経営・情報研究』多摩大学研究紀要,7,1-15 (2003)

- 授業計画**
1. イントロダクション
  2. レジュメ作成の方法論～トータルミン3点ロジック
  3. サービス概念の再検討
  4. 消費とは何か
  5. 「サービス・消費」は「社会」が発見されてから構築された概念
  6. 使う人の喜び
  7. 顧客コンセンサスの暗部
  8. モビライザー
  9. 企業は顧客を知らない
  10. 幸せとお金との経済学
  11. 相対性の真相
  12. 需要と供給の誤謬
  13. ゼロコストのコスト
  14. 社会規範のコスト
  15. 最終講義

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。具体的には、授業前に各回の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（2時間）、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

講義内での意見応答を、学内導入済みのRESPONあるいはmicrosoft teamを用いて可視化し、双方向授業実施も行う。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**